

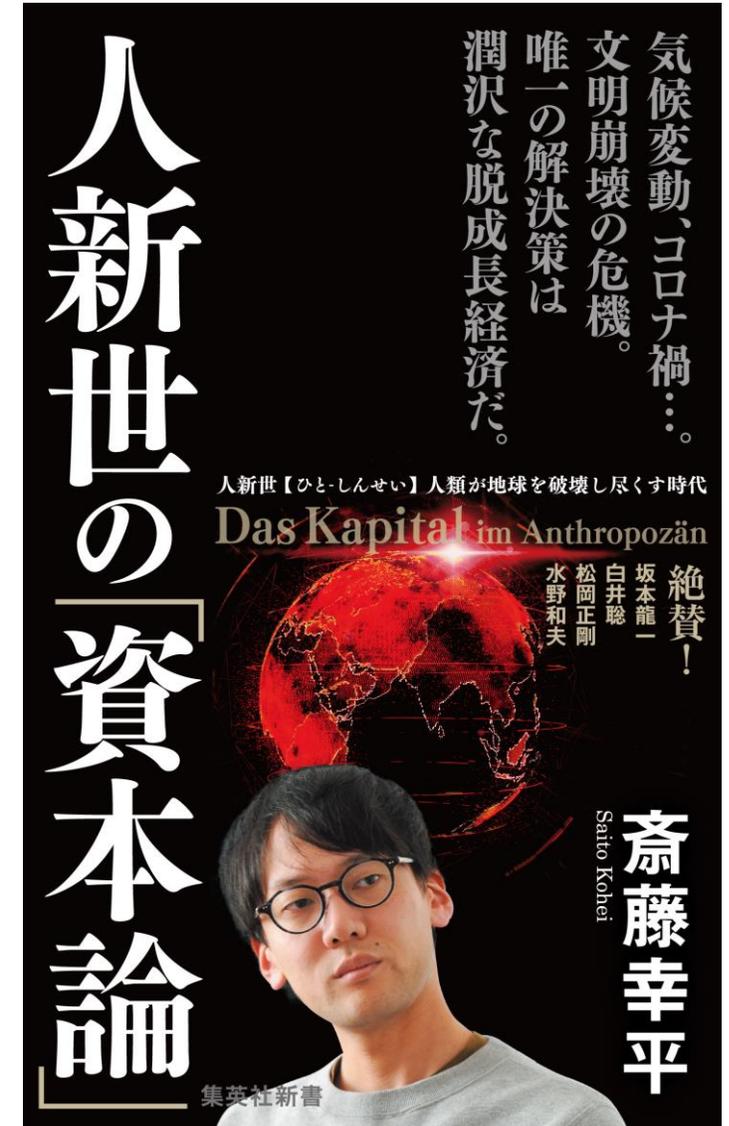
# 人新世の資本論

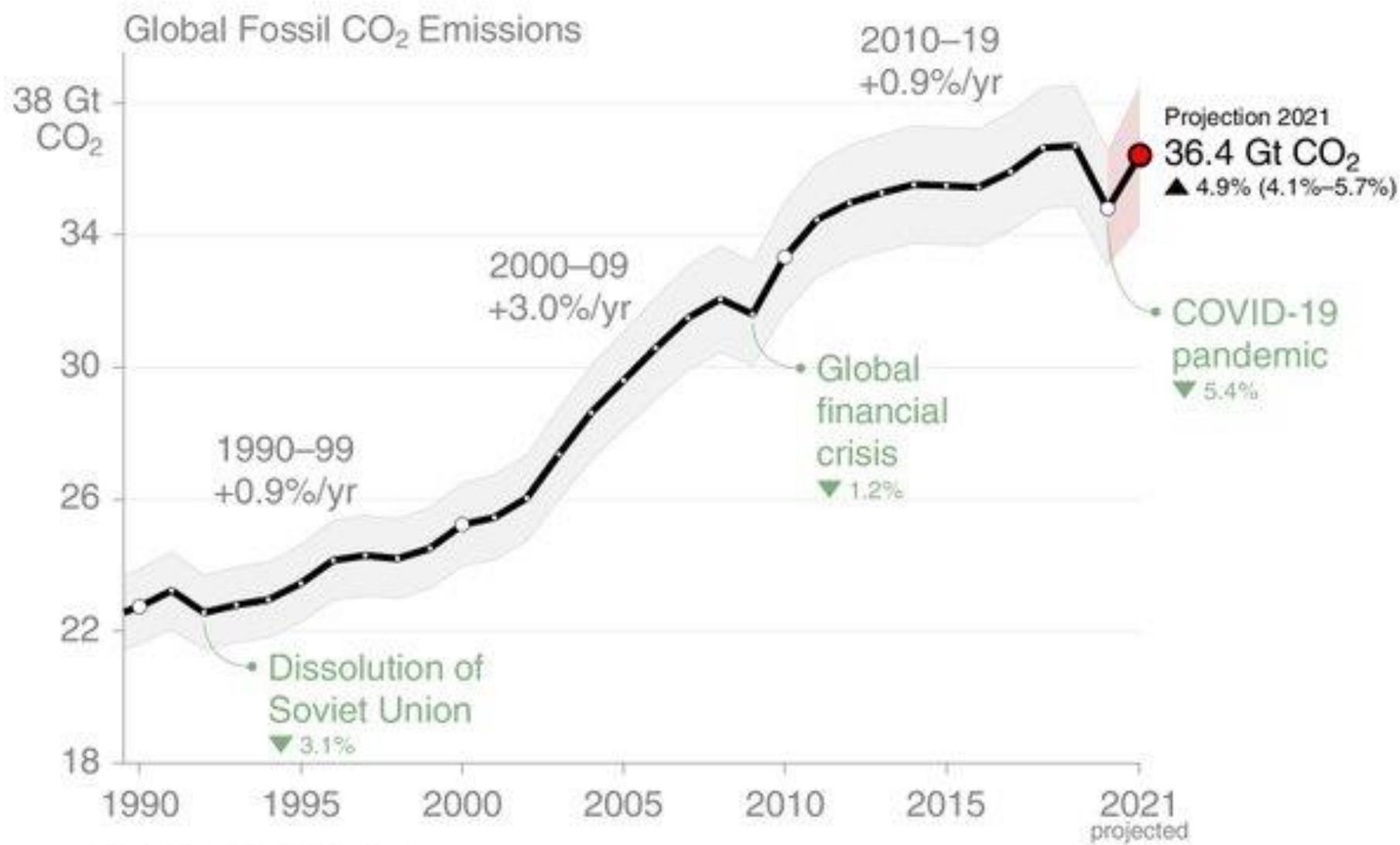
斎藤幸平

2021年12月4日

# 「SDG s は大衆のアヘンである！」

- 自分はなにかを「小さなアクション」やっていると思うことで、今本当に必要とされているもっと大胆なアクションを起こさなくなってしまう
  - 企業PR、ブランド化
  - 消費者としての選択で満足してしまっている
- =今まで通りの生活を続けるための「免罪符」。





# 人新世と環境危機

- 気候危機はすでに始まっている
- 人新世 (Anthropocene)  
= 人類の経済活動が地球全体を変えてしまった時代
- 今後の未来に影響を与えるような選択を人類はしなくてはならない
- 冷戦崩壊後の資本主義のグローバル化  
= 経済格差と環境危機  
→ 「グレートリセット」 (ダボス会議) の必要性
- リセットによって何を目指すのか？

# 2つの道

• 残された時間はわずかである・・・

① だからこそ、既存のシステムを使わないといけない。今、力を持っている政治家や企業の良心的な人々に訴えかけることで方向修正を図る = 緑の経済成長、ロビイング、選挙

② だからこそ、既存のシステムから決別しなければならない。パワーバランスの転換を目指すようなラディカルな運動によって、システムを変える。

= 脱成長、ポスト資本主義、デモ、社会運動

# メリット・デメリット

## ①のメリット/②のデメリット

- 既存の価値観に訴えかけることで普及しやすい。
- 大きな権力や資本が動く可能性もある

## ①のデメリット/②のメリット

- 既存のシステムに取り込まれてしまい、結局ウォッシュになる
- 専門家や政治家たち中心のトップダウン型の解決策は、既存の不平等や格差を再生産してしまう可能性

# ①ダボス会議と「グレートリセット」

「脱成長をむやみに追い求めないよう、注視しなければならない。・・・より少ない労力でよりおおくのことができるようになる技術はすでに存在している。もし私たちが、環境や社会に優しいフロンティア市場の成長を測る方法を明確に定め、その成長を加速させる投資を奨励する、より包括的で長期的な取り組みに挑むようになれば、経済的、社会的、環境的要因の間に根本的なトレードオフはないのである。」

## ②脱成長コミュニズム

- 無限の経済成長を求め続ける限りで、十分に絶対的なデカップリングは起きない
  - 成長を続ける限りで、デカップリングを実現するためのハードルはあがる
  - リチウムやコバルトなどのレアアースをめぐる帝国主義的争いの激化
  - バイオマス用の農地開発による生態系の破壊、現地住民生活の破壊  
= 資源独占、土地収奪、何のための「グリーン」か？
  - 資源利用やエネルギー消費量を減らしていくという道をなぜ先進国は取れないのか
- そのようなリーダーに気候正義は実現できない

# 想像力の貧困化

- グリーンニューディール的な大転換はもちろん必要だが・・・
- 緑の資本主義は「忖度」である！  
= 既存の価値観に予め迎合することで欺瞞となる  
→ 今までの生活が問題だったことを直視しなければ、未来は拓けない
- 自分たちの生活・社会を変えないで、市場、技術、政策が変えてくれる  
→ 本当は別の生活・社会を思い描くべきなのに（車のない社会、労働時間短縮、ジェンダー平等）、私たちの想像力がむしろ狭まっていく
- 対立を避けることで、既得権益層を利することに
- 3・5%

# 「豊かさ」とはなにか

- 問題はCO2を減らすことではない  
= 技術的・経済的問題への矮小化、制度主義/政治主義
- 危機を前にして、どのような社会に住みたいかを問い直す
- 資本主義の下で失われている別の可能性がたくさんあるはず
- 家族との時間、趣味、スポーツ、読書、ハイキング、ボランティア
- 労働時間を短縮し、課税で格差をなくし、公共サービスを無償化し、競争のストレスから解放  
= 「ラディカルな潤沢さ」